

新作映像「ララミディア大陸編」について

1 ララミディア大陸とは

後期白亜紀の 9,960 万年前から 6,600 万年前、現在の北アメリカ大陸の西側部分にあたる大陸。当時、北アメリカ大陸の内陸部に広く海が入り込んでいたため東西に分断されていた。アラスカからメキシコにおよぶ細長い陸塊で、恐竜化石が豊富に見つまっている。

2 登場する動物

(1) 空中パート

① アズダルコ科

大型の翼竜。比較的長い後肢と極めて長い首が特徴的。

(2) 陸上パート

① エドモントサウルス

口先に幅広のくちばしを備えた、いわゆるカモノハシ竜と呼ばれる大型の草食恐竜。群れを作って暮らしていたと考えられている。

② パキケファロサウルス

頭部がドーム状に発達した、二足歩行性の草食恐竜。ドーム部の骨が分厚いことから、争いの際に頭突きをしたと考えられている。

③ アンキロサウルス

体の背面が装甲で覆われた、四足歩行性の草食恐竜。尻尾の先端にはコブがあり、振りまわして敵を撃退したと考えられている。

④ アケロラプトル

ベロキラプトルに近縁の、二足歩行性の恐竜。手足に鋭いかぎ爪を備えた小型のハンター。

⑤ ティラノサウルス

ララミディアの恐竜の中で最も大型の肉食恐竜。大きな頭部や力強い後肢とは対照的に、小さな前肢を持つ。

⑥ トリケラトプス

特に大きな頭部を持つ、四足歩行性の草食恐竜。発達した3本の角と大きなフリル、鉤状のくちばしの特徴的。

(3) 海中パート

① イクチオルニス類

全長30cmを少し超える大きさの鳥類。現在のカモメやアジサシのように海上を舞い、魚を捕らえたと考えられている。

② モササウルス

非常に大型の爬虫類。トカゲやヘビに近縁と考えられ、当時の海洋生態系の頂点に立つ存在だった。小型の海棲爬虫類、大型の魚類、海鳥など、なんでも捕食したと考えられている。

③ シファクティヌス

全長5 m 以上にもなる大型の魚類。恐竜の絶滅とともに姿を消した。
丸呑みした大型の魚類が腹部に保存されている化石が発見されている。

④ アンモナイト（パキディスカス）

殻を持つ頭足類（イカ・タコの仲間）。頭部の漏斗から水を噴射して推進力を得るので、足がのびる方向と逆に進む。パキディスカスは殻の直径が 60 cm 以上になるアンモナイトで、世界中の海に分布していた。

⑤ ナコナネクテス

全長5 m 程度のエラスモサウルス科の首長竜。

首長竜の中でも長い首をもつものが多いエラスモサウルス科の中では首が短めである。

3 画面展開

(1) 空中パート

① アズダルコ科（翼竜）と同じ目線で始まり、上空からエドモントサウルスの群れを見下ろす。次第に高度を下げる。

(2) 陸上パート

- ① 翼竜は飛び去り、目線は地上に。パキケファロサウルス同士の頭突きのシーンが現れる。
- ② やがてアケロラプトルの群れがアンキロサウルスを襲っている様子が見えてくる。
- ③ その後、2頭のティラノサウルスがそれぞれトリケラトプスと格闘するシーンが見えてくる。
- ④ 目線は陸地を過ぎ、海中へ。

(3) 海中パート

- ① 海中に突っ込んだ瞬間に、イクチオルニス類が海面に一瞬見える。
- ② 大きなモササウルスが真正面に捉えられ、垂直に海中に沈んでゆく。
- ③ 左右をシファクティヌスの群れが抜き去ってゆく。
- ④ ほぼ同時にアンモナイトの群れに突っ込む。
- ⑤ 群れを抜けると、ナコナネクテスの親子が泳いでいる。
- ⑥ 右手からナコナネクテスの子めがけて、モササウルスが襲いかかってくる。
- ⑦ 子を庇うように親がこの前に身を晒すと、モササウルスは親を啜ってそのまま海底に泳ぎ去っていく。
- ⑧ 別のモササウルスが現れ、ナコナネクテスの子に向かってゆく。
- ⑨ 縄張りに侵入してきた個体を追い払おうと、先ほど親を海底へ引きずり込んだモササウルスが攻撃を加える。
- ⑩ 追われた別のモササウルスが反撃。しばらく小競り合い。
- ⑪ 2頭のモササウルスが縄張りをめぐって争っている間に、ナコネクテスの子は無事逃げおおせる。

息をしようと海面に向かう中で太陽光が差し込み、ホワイトアウトして場面は終了。

空中パート①



陸上パート③



海中パート⑥

